

# 協働事業事例集

～市民と行政が共に力を合わせて～

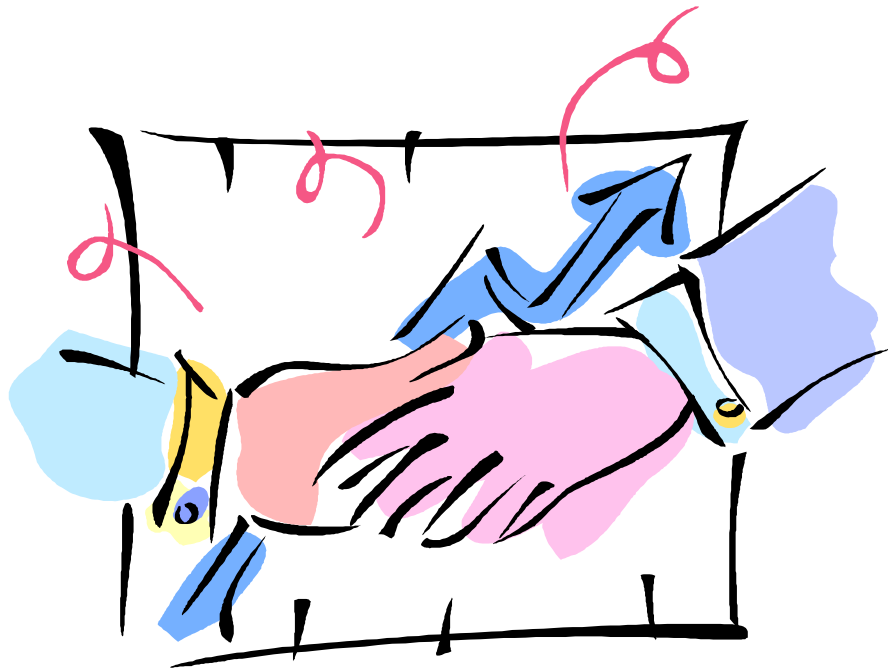


平成26年3月  
平塚市

## 協働事業の関連資料

- ① 協働の概要パンフレット・・・・・・・・「入門書 協働のススメ」
- ② 協働事業の詳しい内容・・・・・・・・「協働事業ガイドライン」
- ③ 事業提案（募集）の方法・・・・・・・・「応募の手引き」
- ④ 協働に関する提出書類・記入例・・・・・・・・「協働事業 提出書類集」

※上記の関連資料は、市ホームページからダウンロードできます。協働事業の提案や実施の際の参考資料として、併せてご活用ください。



## 1. 提案型協働事業（平成23年度～25年度実施事業）

事例紹介① 小学生向け財政パンフレットの作成	P 1
事例紹介② 市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化	P 4
事例紹介③ 協働事業の情報発信	P 7
事例紹介④ 「地域猫」への取組み	P 10
事例紹介⑤ 里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 （グラウンドワークの推進）	P 13
事例紹介⑥ 一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	P 16
事例紹介⑦ 高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業	P 19
事例紹介⑧ 朗読による平和推進事業	P 22
事例紹介⑨ 「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座	P 25
事例紹介⑩ 応急手当普及・啓発事業（応急手当講習会等の実施）	P 28
事例紹介⑪ 協働による地域づくり事業～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携 （ひらつか地域づくり市民大学）	P 31
事例紹介⑫ 外国籍市民支援放送事業	P 34
事例紹介⑬ 食品の放射性物質簡易検査	P 37

## 2. その他の協働事業（平成25年度実施事業 抜粋）

事例紹介① 平和意識普及・啓発事業	P 40
事例紹介② 湘南ひらつかテクノフェア	P 41
事例紹介③ 湘南ひらつか七夕まつり	P 42
事例紹介④ あそびの森	P 43
事例紹介⑤ 浅間祭	P 44
事例紹介⑥ 河川環境整備事業（馬入水辺の学校）	P 45
事例紹介⑦ 放課後子ども教室推進事業	P 46
事例紹介⑧ 平塚市市民総合体育大会	P 47
事例紹介⑨ 市民病院ボランティア（総合案内補助・車椅子介助等）	P 48

## 3. 提案型協働事業一覧（平成23年度～25年度実施事業） P 49

## 4. その他の協働事業一覧（平成25年度実施事業） P 51

# 小学生向け 財政パンフレットの作成

- パートナー：ひらつか自治体財政研究会
- 担当部署：企画部財政課  
                  学校教育部指導室
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成23～24年度

## 事業の目的と概要

小学6年生の社会科の時間に、世田谷区の財政について学ぶので、この時に平塚市の財政も知ってもらいたいと、平塚市の財政パンフレットを作成し学校に提供することとしました。  
財政用語は特有の言葉で分かり難いので、分かりやすいパンフレットを作成することとしました。

### 財政パンフレットの発行

小学校で使用中の教科書から、どのような内容を記載したらよいか検討し、4ページに含める内容を決定しました。平塚市の主な仕事、平塚市のお金の使われ方、平塚市のお金のやりくり、平塚市のこれからの人口と財政、平塚市のお金の使い方が決まるまで、この5項目に分けてイラスト・写真などで解説しました。児童用：2616部、教師用108部を印刷し学校に納入しました。



### アンケートの実施

小学校での使用状況を知るために、各学校単位でアンケートを実施することとしました。28校中25校から回答を得て、17校が分かりやすかったと評価されました。  
教科書では世田谷区の財政状況が記載されているため、パンフレットで紹介する平塚市と比較し、特徴や違いなど分かりやすかったようです。但し、一部の学校では学習計画が組まれていて授業で使用できなかったとの回答もありました。

## お互いの特性を活かした役割分担

- 行政の主な役割分担
  - 財政の情報提供、学校との連絡調整、用語・表現内容検討、アンケート分析、編集会議開催など
- 団体の主な役割分担
  - 財政パンフレットの検討、原稿作成・印刷、アンケート分析、編集会議開催など

## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成 23 年度 事業費 197,300 円 (うち市の支出額 152,500 円)

平成 24 年度 事業費 143,570 円 (うち市の支出額 68,000 円)

### ■ 主な支出の内容

人件費 (パンフレット、教師用資料作成)、印刷費 (パンフレット、教師用資料)、消耗品費 (プリンター、用紙等)

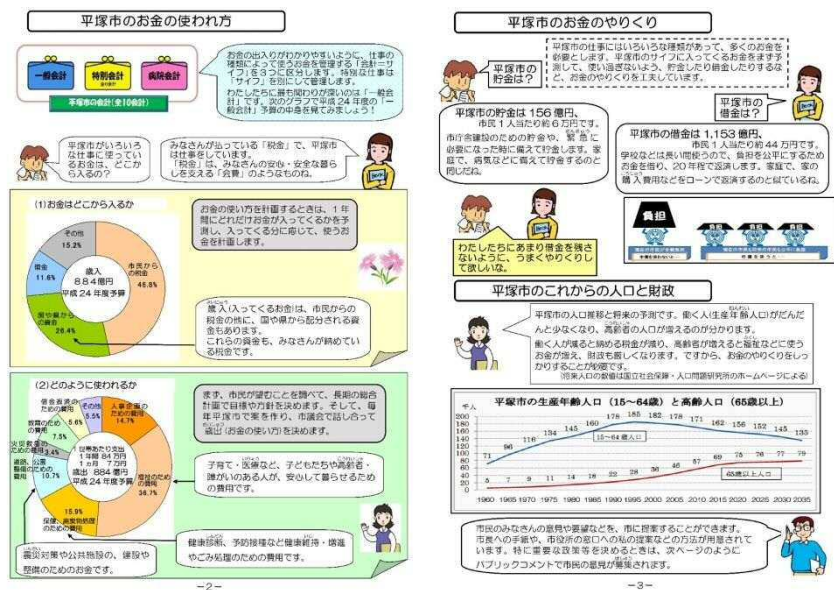
## 協働による成果

### ■ 市民目線を加えた財政パンフレット

自治体の財政やまちづくりに関心を持ち活動する団体と、専門知識 (小学生への授業経験、財政知識) を持つ行政とが協働して財政パンフレットを作成できました。

### ■ 分かりやすいと高評価

アンケートの回答から、分かりやすいと評価される財政パンフレットを作成し、小学校で使用することができました。



## 行政担当課の声

### ■ 小学生でも分かりやすいパンフレットを目指して

パンフレットは小学校の先生の意見を聞きながら、授業で使いやすいもの、小学生でもわかりやすいものを考え、作成することができました。

### ■ 今後も教材として使用

平成 25 年度以降については、この教材を使用した授業実践を引き続き小学校等で行ってもらい、検証を進めます。学校からのニーズ等があった場合、学校の窓口となり、サポートしていきたいと考えています。

### パートナーの団体概要

- 市民による自治体財政白書を発行しています。

まちづくりの基礎は市の財政に有りと考え 2006 年から活動を始め、2009 年 3 月に神奈川県下で初めて市民が作った「自治体財政白書」・・・私たちの税金は、何にどう使われているの?・・・を発行しました。その後 3 年連続で発行しました。時宣を得たタイミングでまちづくり情報をお知らせするため、年 4 回程度「まちづくり財政白書ミニ版」を発行しています。

- 月に 2 回定例会開催。市や議員との意見交換も行っています。

ひらつか市民活動センターでの月 2 回の定例会は、情報宅配便での行政の計画する事業の説明を受け討論し、市議会議員との意見交換会などを開催しています。

### パートナーの声

- 小学校の授業で活用し、家庭でも家族の話題になるように

平塚市の財政を多くの人に知ってもらうため、小学 6 年生の社会の時間に活用する財政パンフレットを作成し授業で使用してもらい、家庭に持ち帰り家族の話題として活用されることを期待し作成しました。

- 行政と力を合せて分かりやすいパンフレットを作成

財政で使う用語は特有の言葉で分かり難いですが、学校現場の経験や財政課との編集会議を経て分かりやすいパンフレットを作成することが出来ました。

- 市民に自治体財政を知ってもらう活動を継続

団体では「財政白書」や「財政白書ミニ版」を作成しており、市民に自治体財政を知ってもらう活動を継続していく計画です。



# 市民活動団体間の連携強化と 活動拠点の機能強化

- パートナー：ひらつか市民活動連絡協議会
- 担当部署：市民部協働推進課
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成23～24年度

## 事業の目的と概要

市民活動団体の活動は、それぞれ個々に社会的課題に取り組んでいましたが、その活動が地域住民にあまり認知されていない場合もありました。

まちを良くするため共通の目的を持つ団体が連携することでより良い活動となり、市民活動が活性化すると考え、団体間の連携強化と、その活動拠点である市民活動センターの機能強化を進めることとしました。

### ■ 5つの分野別に部会を立ち上げ団体が連携

平成23年度には、自治会、市民活動団体へアンケートを行い、地域で抱える課題、市民活動団体が連携できる分野などを調査しました。

「市民活動団体 パワーアップ（連携づくり）フォーラム」を開催し、市民活動団体が連携してできることは何かを話し合い、5つの分野別部会を立ち上げ、24年度に実施する事業の計画づくりを多くの団体が連携して実施しました。

平成24年度には、福祉2分野、防災、まちづくり、情報化の5分野の分野別部会で市民活動団体が連携して様々な事業を実施し、一つの団体では実施できない大きな成果をあげ、団体連携による効果を実感できました。

また活動拠点の機能強化としてHPの改善案の提示や、団体交流会、ソーシャルメディア講座の協働実施などに取り組みました。



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

アンケートの送付、情報提供、広報、フォーラム・講演会の会場確保、市各課との調整

### ■ 団体の主な役割分担

アンケート作成・集計、フォーラム・講演会・分野別部会の企画・運営、団体間コーディネート

### 事業費とその主な内容

#### ■ 事業費と市の支出額

平成 23 年度 事業費 370,133 円（うち市の支出額 353,000 円）

平成 24 年度 事業費 276,521 円（うち市の支出額 276,521 円）

#### ■ 主な支出の内容

講師謝礼、人件費（講演会企画、部会運営、情報誌作成等）、事務用品費（コピー用紙、インク代）、印刷費（情報誌）、通信費（アンケート）

### 協働による成果

#### ■ 市民活動団体によるコーディネートで活動が活性化

分野別部会のコーディネートを団体が担うことで、行政主導では難しい自律的な議論が実施され団体連携に繋がりました。

#### ■ 行政と協働することで信頼が増し事業がスムーズに

行政と協働したことで、自治会へのアンケートや、市の各課との連携がスムーズに進み、各部会の事業で大きな成果につながりました。

#### ■ 着実な成果、連携が継続

バリアフリートイレマップ、福祉相談パンフレット、災害時要援護者支援啓発パンフ、南口噴水広場のバラ植栽など各分野別部会で着実に事業の成果をあげ、現在も団体の連携が続いています。



### 担当課の声

#### ■ 団体が中心となって大きな成果をあげられた

行政が主導する形で実施すると団体の自律的な議論が中々難しい団体連携というテーマに、市民活動団体自らが中心となって実施することで、自発的な参加を促し、各分野別部会で大きな成果をあげることが出来ました。

#### ■ 行政と協働する事で事業への信頼が増した

また、行政と協働することで地域や、市の各課からの事業への信頼も増し、事業実施において団体間だけでなく、地域や各事業の所管課との連携にも繋がったと思います。

現在も連携が継続して市民活動の活性化に繋がっているなど今後も事業の成果が広がっていくことが期待されます。



パートナーの団体概要

■ 市民に認知される市民活動を模索

市民活動がいかにあるべきか、何をやったら市民に認知できるかを模索して 23 団体の参加で、話し合ってきましたが、今回の協働事業で参加団体は 30 団体に増えました。

■ 様々な主体が参加して課題解決をできるように

今後は、市民活動団体・行政・議員・社会福祉協議会(地域包括センター)が参加し課題を解決する検討会を作っていくことを主眼に活動を展開できればと考えています。

パートナーの声

■ 活動テーマを絞ることで連携ができた

市民活動団体は、各自目的をもって活動しています。目的は同じでも運営の方法が違うなど連携は難しい面が多くありますが、活動テーマを絞るということで連携をすることが出来ました。

■ 5つの部会で様々な成果、今後も活動を継続

「ユニバーサルデザインプロジェクト」「ふらっと～みんなの相談」「災害時要援護者支援」はパンフレットを作成し支援を必要とする市民への無料配布を行い、「花のまちづくり～バラをシンボルとして～」は平塚駅南口の人魚の像集いの場の市民への解放とバラの植栽を実施、「情報部会」はフェイスブック普及講座等を実施し、今後とも部会活動を継続していくことになりました。



# 協働事業の情報発信

- パートナー：ひらつか自治体財政研究会
- 担当部署：市民部協働推進課
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成23年度

## 事業の目的と概要

市民協働による自治運営を推進するため、市民協働の取り組みを広く市民に周知することで、市民の理解を深め、またまちづくりの参加の機運を高めることを目的として、市民協働の取り組みに関する協働情報紙の制作・発行・配布、およびホームページで情報発信を行うこととしました。

### ■ 市民活動団体・職員へのアンケート調査

市民活動団体310団体に行政との協働に関するアンケートを実施し、129団体から回答を頂きました。アンケートでは、市民活動団体の強みとして「人脈・ネットワーク」「事業イベントの企画」が多くあり、行政へ期待する役割として「広報」「信頼性」「活動資金」が多く上がりました。

また、市職員にも研修会参加者にアンケート調査を行いました。

### ■ 協働情報紙の発行

平成23年度に実施されている協働事業の事例紹介や、平成24年度に実施が決定した事業の紹介を「協働情報紙ひらつか」として2回発行しました。

協働事業の現場へ取材に行き、生の声をお届けしました。

### ■ 協働座談会の開催

協働事業の課題の共有のため、市民活動団体間や行政職員も参加してなど5回の座談会を開催しました。

**協働情報紙 ひらつか**

発行：第2号 平成24年3月  
ひらつか自治体財政研究会  
平塚市協働推進課

---

市民と行政が協働でまちの課題を解決

平塚市協働事業

---

平成23年度協働事業の紹介  
平成23年度は、7件の市民提案型協働事業、4件の行政提案型協働事業、合計11件に取り組みました。この情報紙は、市民と行政との協働について理解を深めていただくために、いくつかの事業を紹介します。

**事業紹介1**

紙芝居を通じ、男女共同参画の意識啓発に取り組み	平塚でづくり紙芝居の会 人権・男女共同参画課
男女共同参画推進紙芝居上演 及び普及啓発事業	男女共同参画啓発を推進します

平塚市は、「ひらつか男女共同参画プラン2017」を策定し、男女共同参画社会の実現に向け取り組んでいます。この取り組みの推進に当たっては、性別による固定的な役割分担意識です。とくに、幼児教育や学校教育は人格形成の基礎となり、こうした意識づくりに大きな影響を与えますので、この世代に対する意識啓発がとても重要となります。

協働事業で制作した紙芝居を子どもたちへ幼児への啓発推進として紙芝居の作成を計画、「平塚でづくり紙芝居の会」をパートナーに協働事業として取り組みました。団体が持つ経験と知識を活かし、専業主婦に紙芝居「右に紹介した作品」を製作し、幼稚園・小学校で大勢の子どもたちを前に上演しました。

また、紙芝居の実演技術や知識を幅広く知ってもらうため、保育士などへの講演会を開催しました。これらの紙芝居は、図書館などでも貸し出ししています。



「ひらつか男女共同参画プラン2017」

「ひらつかおばけとツクツクおばけ」(平成21年度)

「サンカクマントのサンカクさん」(平成22年度)

子どもたちの男女平等意識づくりに活用されています。

目次	
事業紹介1 紙芝居を通じ、男女共同参画の意識啓発に取り組み	1ページ
事業紹介2 家庭の生きみ潤層体を目指して	2ページ
事業紹介3 本の読み聞かせを通じ、命の大切さ自殺対策に取り組み	3ページ
事業紹介4 地産産物の花とふれあい、生命と自然の理解を	4ページ

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

発信内容の検討、情報の提供、職員アンケートの実施、情報紙の配布、座談会の企画

### ■ 団体の主な役割分担

発信内容の検討、取材、原稿作成、印刷、アンケート分析、座談会企画開催、協働事例集の作成

## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成23年度 事業費 356,910 円（うち市の支出額 305,710 円）

### ■ 主な支出の内容

人件費（情報紙発行、アンケート作成、座談会企画運営等）、印刷費（情報紙）、消耗品費（用紙代、インク代）

## 協働による成果

提案型協働事業制度が平成21年度に始まって2年が過ぎたが、市民にはまだまだ知られていない現状がありました。

### ■ 市民と市の協働を広く市民にお知らせする

そこで、この事業により、平塚市で実施されている市民と市との協働について、詳しい事例紹介により広く市民に知っていただくことが出来ました。

### ■ 市民目線の情報発信と行政の信頼性

協働のアンケートや座談会などの実施にあたっては、行政の信頼性が活かされました。また、情報紙の作成にあたっては、団体で各事業の現場へ取材に行き、紙面を作成するなど市民目線での情報発信ができました。

## 担当課の声

### ■ 変更が必要になっても協議を重ねた

協働事業を広く知ってもらうためという目的は、双方で共有できましたが、計画スケジュールの管理など事業を始める前の協議が十分でなかった部分もあって、情報紙が当初の予定で作成できませんでした。それでも、座談会の日程や回数内容等で変更が生じた際など団体とよく話し合って事業を進めることが出来ました。

### ■ それぞれの立場を尊重することが大切

協働事業では、それぞれの立場を尊重しながら十分に協議を重ねることが大切だということを強く感じました。

パートナーの団体概要

- 市民による自治体財政白書を発行しています。

まちづくりの基礎は市の財政に有りと考え 2006 年から活動を始め、2009 年 3 月に神奈川県下で初めて市民が作った「自治体財政白書」・・・私たちの税金は、何にどう使われているの?・・・を発行しました。その後 3 年連続で発行しました。時宣を得たタイミングでまちづくり情報をお知らせするため、年 4 回程度「まちづくり財政白書ミニ版」を発行しています。

- 月に 2 回定例会開催。市や議員との意見交換も行っていきます。

ひらつか市民活動センターでの月 2 回の定例会は、情報宅配便での行政の計画する事業の説明を受け討論し、市議会議員との意見交換会などを開催しています。

パートナーの声

- 紙面だけでなく、直接話し合う必要を実感

協働事業の情報を広報紙で発信しましたが、協働事業を提案し不採択になった団体や次年度に協働の提案を考える団体と相談・座談会も開催しました。

このように直接話し合い相談できるしくみも充実させることが必要なようです。

- もう一步前向きに協働に取り組むために

まちづくりには、市民・団体と行政が協働し取り組む時代ですが、もう一步前向きに出来たらと思います。

協働に取り組む団体を増やす、事業内容を深めるなど、私たちが発行する「財政白書ミニ版」に協働の情報を取り上げ、広く呼びかけたいと思います。

事業紹介 2

家庭の生ごみ減量化を目指して	
一般家庭での生ごみ処理推進事業	ごみを生かす会 資源循環課

生ごみは、焼却でなく堆肥化しリサイクルへ

平成 22 年度、早稲市のごみ処理データは、  
 ごみ総排出量 約 8 万 9 千トン  
 ごみ焼却処理量 約 6 万 9 千トン  
 市民 1 人当たり 1 日ごみ排出量 935 g  
 ごみ処理経費 約 28 億円  
 市民 1 人当たりごみ処理費 約 1 万 1 千円  
 燃えるごみの 22.4% が生ごみです、これらは家庭内で堆肥化し減量することで、ごみ処理コストを削減するだけでなく資源化することが可能です。  
 早稲市では「ごみの減量化や資源化に務めるよう」呼びかけています。



生ごみを、堆肥化しリサイクルするイメージ

- 堆肥化の方法
- ・コンポスト法
  - ・段ボール法
  - ・発酵生ごみ処理機法
  - ・EM 菌法
  - ・土穴法
  - ・パチルス菌法
  - ・プランター法



ごみ減量の呼びかけ (広報ひらつか平成 22 年 3 月)

協働事業で相談員を養成

「ごみを生かす会」は、今まで生ごみ処理学習会や、小学校への出前講座などでごみ処理のノウハウを蓄積してきました。これらの経験を活かして、市と協力して生ごみ減量化に取り組めます。

家庭における生ごみ処理を支援し、自家処理する家庭を増やす取り組みとして、生ごみ処理相談員養成講座を開催しました。

堆肥化で生ごみを減量し、環境に優しく

受講生からは「早速自宅でやってみたら、生ごみ処理がこんなに簡単で出来るとは思っていませんでした」との声も聞かれました。大勢の方が参加され、その方々の熱心な取り組みに「この講習を開催して良かった」とも励まされました」と団体の声。

相談員、生ごみ処理実践者の家庭にステッカーを貼付け、実践を PR し多くの方に広めていきます。



講座でコンポスト使用法の説明

# 「地域猫」への取組み

- パートナー：平塚のら猫を減らす会
- 担当部署：環境部環境政策課
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成23～25年度

## 事業の目的と概要

### ■ 爆発的に増えるのら猫とトラブル

平塚市内では、捨てられた飼い猫が野良猫として繁殖を繰り返し、相当数の野良猫が数世代にかけて生息しています。野良猫は繁殖力が非常に強く、何も対応しないと爆発的に増えて、糞害や鳴き声の被害など、トラブルを引き起こしています。

### ■ 地域の問題となった「のら猫問題」

また、野良猫に対する価値観の違いから、住民同士のトラブルに発展するケースが多くなっています。最近では地域の人間関係が疎遠になったため、野良猫への対応を巡って住民が心を病んでしまう事例や、ペット人口増加による動物の遺棄問題など、単なる野良猫問題に収まらない事例も多数発生しており、地域のコミュニティの見地からも放置できない現状があります。

### ■ 地域猫とは

そのため、「野良猫をこれ以上増やさないための不妊・去勢手術を実施する。」「動物愛護管理法に基づき、人と動物の共生を考慮する。」「地域内での野良猫被害を軽減させるとともに、猫問題を住民同士が共有してトラブルゼロを目指すことによって、地域コミュニティの再構築を目指す。」これらを目的として、「地域猫」制度を地域に提言し活動しています。



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

市民への「のら猫問題」に関する問題提起、市民への「動物愛護管理法」と「地域猫」活動の啓発、必要な機材の購入、広報等を利用した「地域猫」活動のPR、講習会・連絡会・情報交換会の調整・実施、スムーズな事業進行やトラブル発生時の調整

### ■ 団体の主な役割分担

のら猫の不妊・去勢手術のアドバイスや技術指導、のら猫のトイレやエサ場の設置作業補助、「地域猫」活動の運営上のアドバイス、講習会・連絡会・情報交換会の調整・実施、行政・自治会等の関係者に連携・協力を呼びかけ、ウンチパトロールを地域関係者と協働で実施、地域での活動状況を地域内に報告

### 事業費とその主な内容

#### ■ 事業費と市の支出額

平成23年度 事業費	299,940 円	(うち市の支出額	194,340 円)
平成24年度 事業費	205,250 円	(うち市の支出額	120,000 円)
平成25年度 事業費	221,080 円	(うち市の支出額	129,000 円)

#### ■ 主な支出の内容

消耗品費、人件費、報償費

### 協働による成果

#### ■ のら猫トラブルが激減した地域も

野良猫に関する相談は数多く寄せられていますが、地域猫活動を行なうことで、以前と比べ野良猫によるトラブルが激減した地域もあり、確実に活動の効果は現れています。

#### ■ 地域の問題として市民に浸透

また、パンフレット配布や自治会への説明会開催等、継続的に地域猫の普及・啓発を行ってきた結果、活動への理解が広がり、市民の中にも「野良猫問題は地域の問題」として受け止めてもらう土壌が出来てきたと感じています。



### 行政担当課の声

#### ■ 実績が認められ地域にも徐々に浸透

平成23年度から地域猫活動を続けてきたことで、初めて訪れた地域でも、口コミ等で他の地域猫を行なった地域の話聞いたことがあるという例も増えてきました。今後も更に地域猫のPRを行ない、野良猫のトラブルについて問題提起できる土壌を作っていきます。

#### ■ 今後は広く連携して対応が必要

また、地域内で野良猫への対応を巡って深刻なトラブルになり、立場の弱い人が心を病んでしまう事態等も発生していることから、課を超えて様々な部署・団体と連携を行ない、対応していきたいと考えています。

## パートナーの団体概要

### ■ 会員83名、のら猫不妊手術は約4,700匹

平成15年10月13名で発足、現在会員83名。

「動物愛護管理法」の繁殖制限活動を目的にして25年10月時点で約4,700匹、のら猫不妊手術を実施しました。

### ■ 市との協働は3年間

2010年度神奈川県動物愛護協会賞受賞。

平成23年から平塚市との協働事業「地域猫」活動開始現在に至る。26年度以降市との「地域猫」事業の継続原則合意、進め方検討中。

### ■ 定例会、バザー開催

※毎月第1日曜日 定例会（市民活動センター）毎月第3木曜日 バザー開催（ふれあい広場）

## パートナーの声

### ■ 3年間の協働事業で潜在していた地域の問題が顕在化

動物愛護管理法における繁殖制限や、人との共生を目的に進めた市との「協働事業」も3年目となっています。しかしながら、地域では動物を介した人のトラブルが深刻になり、「心を病む」事例が多発しています。

また、活動が進み、潜在していた地域の様々な問題が顕在化してきています。

### ■ まちづくりの視点で地域猫活動

今後高齢化の進展により、捨てられた動物に心を通わせる人が増える事から、新たに深刻な課題も想定されます。のら猫問題は人の問題です。今後は改正動物愛護管理法の啓発と共に改めて「まちづくり」の視点で「地域猫活動」に取り組む必要を痛感しています。



# 里地里山の保全活動による 地域環境再生と共生社会の確立 (グランドワークの推進)

- パートナー：土屋里地里山再生グループ
- 担当部署：環境部環境政策課
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成23～25年度

## 事業の目的と概要

### ■ 里山の再生、保全により環境資源を次世代へ引き継ぐ

平塚市西部丘陵地域は、市内で最も豊かな自然が残る地域ですが、谷戸の山林・農地は40年以上も人の手が入らず放置され荒廃しています。かつて里山は、薪や落ち葉が燃料や堆肥として人々に利活用されていましたが、現在は家庭燃料が化石燃料にとって替わり、里山整備や維持管理が行われなくなり、放置された山林は、ゴミの不法投棄などによって荒廃し、里山の持つ多面的な機能も損なわれています。水・みどりといった環境資源を守り、次世代へ引き継いでいくために、里山の再生、保全及び活用は重要な課題です。

### ■ 駐車場、仮設トイレを整備し里山を市民の憩いの場に

当市民提案型事業では、里山の再生・保全活動やイベント開催に必要な不可欠である駐車場や仮設トイレ等含むフィールドを、平成23年度に整備していきました。平成24年度から25年度には市民参加型のイベントとしてブルーベリーの植樹会を開催し、合計250本の苗を活動フィールドに植樹しました。このブルーベリーは今後も摘み取り体験などのイベントで活用するとともに、団体が自立し、継続的な里山保全活動を行なっていく際の貴重な自主財源となります。活動フィールドでは、他にも生き物観察会や里山の食材を使った料理教室など、年間を通じて様々なイベントを開催し、里山を市民の憩いの場として提供しています。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

消耗品や資機材の調達先情報の提供、広報等を利用した協働事業活動のPR、消耗品や資機材等の関係経費の負担、関係法令に基づく助言・指導、協働事業進捗状況の確認

### ■ 団体の主な役割分担

里山再生・保全・利活用のための現場作業、各施設やブルーベリー等の適正管理、履行場所の地権者への情報提供、各種セミナー、イベントの実施、講習会・連絡会・情報交換会の調整



## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成23年度 事業費	1,427,292 円	(うち市の支出額	1,263,027 円)
平成24年度 事業費	977,593 円	(うち市の支出額	228,100 円)
平成25年度 事業費	830,350 円	(うち市の支出額	169,350 円)

### ■ 主な支出の内容

人件費、機械リース費、トイレ設置費、資材費、保険費、通信費、消耗品費、旅費交通費

## 協働による成果

### ■ 美しい里山を取り戻す

平成23年度から駐車場や仮設トイレ等が整備されたことで、里山の再生・保全活動が可能となり、荒れ果てた山林や農地は美しい姿を取り戻しつつあります。

### ■ 市民が里山を知るきっかけ作り

また、再生された里山を活かしたイベント等も多数開催され、多くの市民が参加しています。この協働事業を通じて、市民が「里山」を知り、その大切さについて考え、親しんでいくきっかけ作りが出来たと考えられます。



## 行政担当課の声

### ■ 市民団体の特性を活かして

里山の再生・保全は重要ですが、里山整備のノウハウや里山を活かしたイベント開催等、行政よりも市民団体が得意としている部分があります。今回の協働事業では行政と市民団体、両者がお互いの長所を活かし、進めることが出来たと感じています。

### ■ ブルーベリーを活用して

平成25年度で協働事業は終了しますが、今後は植栽したブルーベリーを活用したイベント等、さらに里山が身近になるように期待します。

### パートナーの団体概要

#### ■ 里地里山の状況に危機感を抱く地域住民が集まって

私たち「土屋里地里山再生グループ」は、荒れ果てた里地里山の状況に危機感を抱く地域住民や土地所有者が集まり、平成21年7月に結成された市民活動団体です。

#### ■ 地道な下草刈りから様々な里山イベントまで

現在まで会員の手作業による雑木林の復元及び保全のための篠竹や下草刈り、間伐や倒木の除去作業、市街地住民との交流を目的とした農作物の収穫体験会や子どもを対象とした生き物観察会開催等、様々な活動を実施しています。

### パートナーの声

#### ■ 市民・行政それぞれの特徴を活かして

それぞれの特長を活かしながら、着実に里山の利活用は進んでいると感じています。

#### ■ 虫観察会やキャンプを実施

イベントも多数開催し、整備した里山を利用しての2日間にわたる虫観察会やキャンプ等の大掛かりなイベントも実施することができています。

#### ■ 今後の課題と自主財源の確保

水路の整備など今後に向けた課題はありますが、ブルーベリーを使った石鱈の製作など、団体として自主財源を得るための取り組みも進んでいます。



# 一般家庭での生ごみ 自家処理推進事業

- パートナー：ごみを活かす会
- 担当部署：環境部循環型社会推進課
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成23～25年度

## 事業の目的と概要

### ■ 生ごみの自家処理による堆肥化を普及

一般家庭において、生ごみを自家処理し堆肥化などによる活用が可能であることを市民に広く普及することを目的に講習会等を行うものです。

### ■ 生ごみ処理相談員の養成

平成23年度は、市民から生ごみ処理に関する相談を受ける「生ごみ処理相談員」を養成するため、コンポスター、段ボール、プランター等を活用した方法を一連の講座の中で幅広く学び、市のごみ処理施設や企業・個人の自家処理状況も見学するなど、ごみ処理に対する理解を深める機会を設けました。

### ■ 生ごみ処理実践者の育成

平成24年度は、多くの方に講座を受講していただくため、土曜・休日に開催を行ったほか、受講方法も自らのライフスタイルに沿った興味関心のある方法だけを受講できるようにし、「生ごみ処理実践者」の育成に努めました。

### ■ 各地域を会場に講座を実施

平成25年度は、過去2年間の協働事業により「生ごみ処理相談員」として市に登録した方が、市民団体「ごみを活かす会」と協力し、それぞれの地域で会場を確保し、講座を開催しました。また、「生ごみ処理相談員」の講座運営を含めたスキルアップを図るために、「生ごみ処理相談員」による情報交換会を実施しました。



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

ホームページや回覧等による広報活動、参加者との連絡調整、日程・会場の調整（副）

### ■ 団体の主な役割分担

日程・会場の調整（主）、資料等の作成・印刷、各イベントでのステッカー配布 チラシ配布

## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成 23 年度 事業費	233,614 円	(うち市の支出額	228,614 円)
平成 24 年度 事業費	85,870 円	(うち市の支出額	80,870 円)
平成 25 年度 事業費	67,800 円	(うち市の支出額	62,800 円)

### ■ 主な支出の内容

謝礼、人件費、事務用品費、通信費

## 協働による成果

### ■ 3年間で458名が講座に参加

平成 23 年度から平成 25 年度にかけて、一般家庭での生ごみ自家処理相談講座を延べ 27 回開催し、延べ 458 名が参加しました。本事業を通じて市に登録した「生ごみ処理相談員」は 13 名。「生ごみ処理実践者」としてのステッカーを配布したのは 69 名（各イベントを通じた配布も含む）。

### ■ ホームページ、ケーブルテレビでの広報

市のホームページ上に様々な生ごみの自家処理方法を掲出しました。また「生ごみ処理相談員」と受講者の間で交わされた質疑内容も掲出しました。

湘南ケーブルテレビでは 8 月の一か月間、活動が紹介されました。

### ■ 生ごみ処理相談員中心の相談体制

市民からの生ごみの自家処理に関する問い合わせについて、「生ごみ処理相談員」を中心に対応する方法をルール化しました。

## 行政担当課の声

### ■ 事業を通じて要請された相談員が地域で講座を実施

市民提案型協働事業を通じて養成かつ市に登録いただいた「生ごみ処理相談員」が、平成 25 年度には各地域で講座を実施し、「生ごみ処理実践者」を育成するまでに至りました。

### ■ 引き続き家庭での生ごみ自家処理を推進

平成 25 年度をもちまして本事業としての取組は終了になりますが、引き続き「生ごみ処理相談員」を中心とした取組により、家庭で生ごみを自家処理する市民を増やし、ごみの減量化や資源化に努めてまいりたいと考えております。

### パートナーの団体概要

#### ■ 平成18年に発足し、ごみ減量化を市民に発信

平成18年発足。ごみや環境に関する講演、講習会を開催し、市のイベントなどにも積極的に参加しています。家庭の生ごみを自家処理することで、生ごみを利用して楽しむ、ごみの減量化にもつながることを広く市民に向けて発信しています。

#### ■ 3年間の協働事業実施。生ごみを燃やさないことが常識になることを目指す

平成23年から3年間、市との協働事業を実施。生ごみは燃やさないことが市民の常識になるようなまちづくりを目指して活動しています。現在会員は19名。全員が生ごみを自家処理し、内9名は相談員でもあります。

### パートナーの声

#### ■ 市民に身近な地域で講座を開催

事業を進めていく中で、講習会の運営、内容が確実に、より充実したものになったと思います。平成25年度に相談員が中心となり、自らの地域で開催したことは、市民には身近で参加しやすい講習会となり、自家処理を始めるきっかけになっているのを感じました。

#### ■ 相談員の自信が協働事業終了後の道筋に

相談員にとっては大きな自信となり、事業終了後の道筋が出来たと考えます。今後も市と協働し、自家処理の普及を推進することは会の主な活動になると思います。

#### ■ 今後も市民に生ごみ自家処理の普及を

来年度からは、市役所ホールで毎月生ごみ処理相談コーナーを開催する計画です。この方法の普及について大変効果的な試みになることでしょう。



# 高麗山公園ハイキングコース等 植生調査事業

- パートナー：湘南の森
- 担当部署：まちづくり事業部みどり公園・水辺課
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成24年度

## 事業の目的と概要

本事業は、高麗山公園内の浅間山ハイキングコース付近の樹木の多くが高齢化・衰弱しており、一方、次の世代の若い樹木の生育が殆ど見られない現状を早急に改善し、豊かで持続性のある森として次代に引き継いでゆくために、森の現況を調査・評価し、森の再生と活性化のための具体的な提言を行い、それを次年度以降の行政計画及び市民活動に反映させることを目的に行われました。

### ■ 客観的な植生データ収集とエリアの付加価値を創出

事業実施にあたっての基本的な考え方としては、「①高麗山公園ハイキングコース内での客観的な植生データを収集し、特性・課題の抽出を行う。②抽出した特性・課題を考察し、当該エリアにおいて、どのような行政施策及び市民活動が必要かを明確にする。③高麗山公園ハイキングコースの多様性を明らかにし、このエリアの付加価値を創出する。」を軸として行いました。

平成24年度実施市民提案型協働事業

高麗山公園ハイキングコース等  
植生調査事業 結果報告書



市民団体「湘南の森」  
平塚市

### ■ 実施調査と報告書作成

平成24年4月に協働契約を締結した後、5月から実地調査を開始いたしました。調査体制は、森林調査法等の研修を受けた「湘南の森」メンバー4名とGPS測量取扱従事者（委託業者）1名のチームといたしました。調査内容は、GPS測量による位置測定、樹種、胸高周囲、樹高、健康度判定などとし、これらの調査から、「①調査樹木ごとの処置方針②コースの特性と課題③ゾーンごとの実態と価値④コースのあるべき姿とこれに向けての対応方針」を明らかにしようとしてきました。同年8月には製図を開始、10月に樹木医診断、11月に森林遷移調査を行い、12月から報告書の作成を行いました。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

予算執行管理、報告書の作成（データ作成）

### ■ 団体の主な役割分担

事業進捗管理、外注管理、報告書の作成（文面作成）

事業費とその主な内容

■ 事業費と市の支出額

平成24年度 事業費 133,900円（うち市の支出額 133,900円）

■ 主な支出の内容

GPS 測量業務委託費、データトレース業務委託費、専門家派遣費用

協働による成果

高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業結果報告書では、以下の行政施策に関する提言を行っており、これらを明確にしたことは、協働による成果だと考えられます。

- (1) 当該エリア内のソメイヨシノの伐採若しくはこれに代わる処置の実施
- (2) 当該エリア内の植生と適合した樹木(ヤザナギ等) 300本程度の植栽
- (3) 当該エリアの価値のあらゆる媒体での発信
- (4) 当該エリアの維持管理の持続可能な協働モデルの構築
- (5) 保全スキームの確立

調査結果

③高麗山公園ハイキングコースの特性と課題 ～調査結果から～

件名の「調査エリア特定(植物)」のように、高麗山公園ハイキングコースは、自然の豊かさと景観の美しさ、そして健康とレクリエーションの場としての役割を担っている。一方で、近年の気候変動による植生の変化や、観光客の増加による環境への負荷など、課題も存在している。

今回の調査結果は、S、C、Y地区（P、Rを除く）を以て、植生特性に基づき、主要な樹種とそれらに付随する植物を調査した。

その結果、半数以上の7本がサクラであり、その大部分が雑種であるソメイヨシノであることが明らかになった。これらは、ハイキングコースの景観を彩る重要な要素の一つとして認識されるべきであり、適切な管理と維持が必要である。

また、調査結果から、以下の点が明らかになった。

- ・樹木伐採の結果、調査した7本のサクラのうち、殆どのサクラがソメイヨシノに由来し、不健康な状態
- ・調査した7本のうち、半数以上の樹木は腐敗
- ・調査した7本のうち、殆どの樹木の幹は腐敗と判定
- ・残りの3本は、樹木伐採の必要性が低いと判定

以上のようにより、サクラに関しては、健全な樹木が豊富であるという調査結果となった。それと対照的に、サクラ以外の樹木の調査結果は、67本中66本が健康であると判定された。

これらの結果が健全に生育している理由は、①周囲に植栽されているソメイヨシノを伐採する際の剪定が適切に行われていないこと、②調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、③調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、④調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑤調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑥調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑦調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑧調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑨調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑩調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑪調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑫調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑬調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑭調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑮調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑯調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑰調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑱調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑲調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、⑳調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉑調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉒調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉓調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉔調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉕調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉖調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉗調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉘調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉙調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉚調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉛調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉜調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉝調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉞調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㉟調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊱調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊲調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊳調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊴調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊵調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊶調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊷調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊸調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊹調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊺調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊻調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊼調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊽調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊾調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、㊿調査対象のソメイヨシノは、毎年9月に剪定が行われるため、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害され、剪定後の生育が阻害されること、

提言

(8) 今後の展開/提言

①高麗山公園ハイキングコースのあるべき姿

以上で記述してきたとおり、高麗山公園ハイキングコースは、適切な保全管理のもとで、生物多様性を育み豊かな自然環境である。同じく高麗山公園内の植物保全のための重要な役割を担っており、今後もこれを維持・発展させる必要がある。このため、人と自然が調和共存できる環境づくりを進め、高麗山公園ハイキングコースの魅力を最大限に引き出す必要がある。今後、高麗山公園ハイキングコースの魅力を最大限に引き出すための施策を立案し、実施していく必要がある。

当該コースの価値は「自然の美しさ」であり、市民が訪れることは、この価値を体感できる。そのためには、当該コースの自然環境を、維持管理・向上した必要最低限の範囲とし、本来の魅力を再発見するというコンセプトが重要である。高麗山公園ハイキングコースのあるべき姿とは、市民が、比較的容易に自然の魅力を体験できる環境でありつづけることであると捉えよう。

②高麗山公園ハイキングコースに関する行政施策の提言

本事業のまとめとして、本報告書で以下のような行政施策に関する提言を行うこととする。

- (1) 当該エリア内のソメイヨシノの伐採若しくはこれに代わる処置の実施  
腐敗した樹木を伐採し、健全な樹木を植栽することによって、健全な自然環境を育成する。
- (2) 当該エリア内の植生と適合した樹木(ヤザナギ等) 300本程度の植栽  
調査結果に基づき、調査した樹木の生育状況や環境に適合し、健全な自然環境を育成するための樹木を植栽する。
- (3) 当該エリアの価値のあらゆる媒体での発信  
調査結果を、ホームページ、パンフレット、SNSなどを通じて発信し、市民に魅力を伝える。
- (4) 当該エリアの維持管理の持続可能な協働モデルの構築  
調査結果に基づき、市民が主体的に自然環境を維持管理できるように、持続可能な協働モデルを構築する。
- (5) 保全スキームの確立  
調査結果に基づき、高麗山公園ハイキングコースの保全スキームを確立し、市民が主体的に自然環境を維持管理できるように、持続可能な協働モデルを構築する。

行政担当課の声

■ 互いの長所を活かした

お互いの長所を生かし、費用対効果の高い事業を実施できたと考えています。

■ 任意の協働として今後も継続

今回の市民提案型協働事業では、報告書の作成までを対象といたしましたが、報告書の提言に基づき、任意の協働事業として、平成25年度も事業を進めており、今後も継続していく予定です。

市に実施義務のある業務で専門性が高く、かつ緊急性が低いなどの理由でなかなか手が届かない分野等については、協働事業が最適だと実感しています。

### パートナーの団体概要

#### ■ 湘南平から高麗山の森の保全整備

会員 33 名（2013 年 12 月現在）。2006 年に活動開始、2009 年に団体設立。湘南平から高麗山にかけてのハイキングコースの北側斜面、約 5ha の森の保全整備を、月間 2 回（第二金曜と第四土曜日）のペースで実施しています。

### パートナーの声

#### ■ 目標の共有、市民と行政二つの視点で協働の成果

お互いに、「対象地域の持続可能な保全整備を目指す」という目標を共有して調査を実施し、当初思ったより踏み込んだ、翌年に向けての具体的な指針を得ることが出来たことは、行政と市民という二つの視点から問題に取り組んだ、まさに協働事業ならではの成果であったと思います。

#### ■ 今後も協力を密にして豊かな森作りを

今後は具体的な作業として、上記指針が反映されてゆくこととなりますが、双方の長所や得意技を共有しつつ、協力を密にして、多くの人たちに、喜び楽しんでもらえるような、豊かな森作りを努めたいと思っています。



# 朗読による平和推進事業

- パートナー：朗読「糸の会」
- 担当部署：学校教育部指導室
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成24年度

## 事業の目的と概要

戦争体験記や戦争に関する文学作品・物語等の朗読を通して、平和と命の大切さ、戦争の悲惨さを平塚市民に語り継いでいくことを目的とし、平和教育の一環として学校の授業として取り上げてもらい、児童生徒に直接朗読することで命と平和の尊さを伝えるために公演を行いました。

### ■ ハープやシンセサイザーの生演奏で演出

公演では、ハープやシンセサイザーの生演奏により朗読の表現を高める効果を演出しました。

### ■ 小中学校3校で朗読公演を実施

平成23年度に各学校へのアンケートを行い、実施校を松原小学校、旭小学校、春日野中学校の3校に絞り、公演1月前に実施校・糸の会・指導室（教育指導課）で公演についての確認を行いました。

第1回は4月9日春日野中学校体育館において3年生を対象に、第2回は9月24日松原小学校体育館において4年生・5年生を対象に、また第3回は旭北公民館で旭小4・5年生を対象に公演を行いました。いずれの会場も教職員、保護者、一般の方の参加も可としました。公演のプログラムは松原小・旭小では次の通りです。

1. 朗読 「おとなになれなかった弟たちに…」
2. 演奏 「祈り・光へ」等 （ハープとシンセサイザー）
3. 朗読と音楽のコラボレーション 「ちいちゃんのかげおくり」



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

各学校へのアンケート作成・送付・集計、広報、実施校との連絡調整

### ■ 団体の主な役割分担

実施校へのアンケート作成・集計、演奏者への連絡調整、公演の企画・運営

## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成24年度 事業費 191,500円（うち市の支出額 170,000円）

### ■ 主な支出の内容

演奏者謝礼（ハープ、シンセサイザー）、脚本演出指導料、交通費、事務用品費（コピー用紙、インク代）

## 協働による成果

### ■ 活動団体のプランニングによる平和教育の充実

平和教育は学校の教育課程の中でも大きな柱となっているものである。各学校でも工夫した教育が行われているが、朗読と音楽により、子どもの心に平和の大切さがより強く心に残りました。

### ■ 教育指導課との協働により、事業がスムーズに

各学校へアンケートや日程調整などの連絡が、教育指導課が関わることでスムーズに行えました。特により効果的なものになるような演出を考える上で、学校からの意見を集約できたことは大変よかったです。



## 行政担当課の声

### ■ 子どもたちが平和と向き合うきっかけ

公演を行った学校の子どもたちは、朗読と演奏にふれることにより戦争の悲惨さを知り、平和の大切さを再認識し平和と向かい合うきっかけにすることができました。

### ■ 学校ではなかなかできない企画

また、戦争の体験記・朗読を聴くことにより歴史を深く認識し平和の大切さを学ぶことが出来たようです。学校にとっては、なかなか企画することができない平和教育の在り方を体験することができました。

## パートナーの団体概要

## &lt;設立&gt;

2007年（平成19年）10月

## &lt;活動目的&gt;

- ① 読力・表現力の向上。
- ② 朗読で戦争〈または平塚空襲〉の体験記や平和に関する文学作品・物語などを声に出すことにより、平和への願い、祈り、命の大切さなどを語り伝える。
- ③ 文学作品や物語などを声に出すことにより日本語の美しさ、作品のすばらしさを朗読会や朗読ボランティアなどの機会に普及する。

## &lt;活動内容&gt;

- ① 月2回朗読講座受講
- ② 講座から文学やささまざまな文章にふれる事の喜びや楽しみを会員自らが感じとり、地域での読み聞かせや朗読ボランティアで普及する。
- ③ 定期的に朗読会を行い、言葉の力による感動を聴衆と共感しあう。

## パートナーの声

## ■ 命と平和の大切さを語り継ぐ

私たちは命と平和の大切さ、戦争の悲惨さを青少年に語り継いでいくことを目的とし、学校で朗読することにより命と平和の尊さを直接児童生徒に伝え、語り継いでいくことが大切であると考え、事業を行いました。

## ■ 「命と平和の大切さ」というテーマの重要性を再認識

公演した学校の児童生徒からの感想からこの事業の大きな意義を感じ、糸の会のテーマとして「命と平和の大切さ」を語り続けていくことの重要性を再認識しています。



# 「デジカメとパソコンでできる！ 地域貢献」講座

- パートナー：NPO法人ひらつかITサポート
- 担当部署：社会教育部中央公民館
- 提案型：市民提案型協働事業
- 事業年度：平成24年度

## 事業の目的と概要

団塊の世代が定年を迎え、地域活動に参加して頂ける環境作りは大変重要です。

### ■ デジカメ写真を題材にパソコン講座を開催

そこで同世代や中高年層を中心に、デジタルカメラ撮影写真を題材としたパソコンの技術習得及び地域活動における情報発信等に活用するための講座を、各地域の公民館で開催しました。

### ■ 終了後に地域活動への参加のきっかけに

また、終了後は地域活動への参加のきっかけづくりとともに、習得内容を活用した広報及び情報発信に向けた活動、並びに継続した学習と技術の習得希望者への支援等を図るものいたしました。

具体的には、3つの講座（講座Ⅰ「カレンダーを創ろう」、講座Ⅱ「ブログで情報発信をしよう」、講座Ⅲ「スライドショーを創ろう」）を準備し、各々「3時間、募集人員10名、参加費1000円/人」といたしました。

講座開催は平成24年7月に富士見公民館を皮切りに、9月に中原公民館、11月に神田公民館、12月には金目公民館と、各々の公民館（1公民館/ブログ）にて開催致しました。



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

対象公民館の選定と講習会場の確保。HPの掲載等、受講者の募集、受付業務。地域活動への参加のきっかけづくり及び活用へ繋げるノウハウ（好事例）の提供。

### ■ 団体の主な役割分担

講習会設計、チラシ原稿作成。必要なPC、周辺機器の準備と講習会の実施。パソコンサークルへの指導支援、公民館の広報活動PR。

## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成 24 年度 事業費 212,000 円（うち市の支出額 102,400 円）

### ■ 主な支出の内容

講師代（指導料、交通費）、印刷代（テキスト）、講習設計費（テキスト&チラシ作成費）プロジェクト、LAN 設備（HUB&ケーブル費）

## 協働による成果

### ■ 4 ブロックの公民館で 8 講座を実施

講座開催は、4 ブロックの公民館（富士見、中原、神田、金目）で 8 講座を開催し、参加者 78 名と募集枠 80 名に対しほぼ、100%の参加を頂き、平成 24 年 12 月の開催をもって全講習会を終了しました。

講座の様子は、ちいき情報局への掲載や、湘南ケーブルTV放送（『公民館へ行こう』内）で放映をして頂きました。

### ■ 講座終了後にも学習支援・地域活動支援

一方、講座終了後の学習支援、地域活動支援の一環として、「公民館 PC サークルの紹介」「PC 無料相談会の紹介」「ちいき情報局の紹介」を推進しました。



## 行政担当課の声

### ■ 地域の情報発信をするきっかけづくり

今回実施した「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座の参加者はパソコンの技術向上だけでなく、パソコンをツールとした地域の情報発信をする一つのきっかけづくりになったと思います。

また、4 ブロックでそれぞれ募集し、4 ブロック中 3 ブロックで定員を上回る応募があったことから、ニーズのある事業であると考えています。

### ■ 今後は各館でニーズに合わせて講座を開催

平成 25 年度以降は協働事業ではありませんが、25 年度に中原公民館・城島公民館で「はじめてのパソコン講座」を実施いたしました。今後は各館でニーズの状況等をみながら考えていきたいと思っています。

### パートナーの団体概要

#### ■ 平成21年度にNPO法人化

平成10、11年に実施された平塚市主催の「IT市民講習会」のインストラクター、アシスタントを母体に発足したグループで、平成21年度にNPO法人格を取得しました。

#### ■ こんな所で活動しております

- 平塚市内・各公民館や西部福祉会館で多くの「パソコンサークル」へのサポート活動
- ひらつか市民活動センターで「パソコン相談会」や「各種イベント・講習会」の開催
- 当法人の事務所（研修室）で「個別レッスン」や「はじめての一步講座（パソコン講座）」の開催

### パートナーの声

#### ■ 地域活動に活かせる講習

今回の「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」は市民のメリットとして「公民館でデジタル写真の活用技術、地域活動に活かせる講習を安価に受講が出来た」と考えられ、参加者数やアンケート結果からも評価出来ました。

#### ■ 活動の場を拡げより大きな地域貢献へ

団体側のメリットとして、公民館を活動の場として利用可能となり、より大きな地域貢献活動が可能となりました。

#### ■ 今後は各公民館と個別に推進

平成25年度の活動は協働事業とはせず、中央公民館にお願いをし、各公民館への個別提案（「はじめてのパソコン講座」）を推進させて頂きました。



# 応急手当普及・啓発事業 (応急手当講習会等の実施)

- パートナー：ひらつか応急手当協力会
- 担当部署：消防本部消防救急課
- 提案型：行政提案型協働事業
- 事業年度：平成24～25年度

## 事業の目的と概要

平塚市では、救急隊が現場に到着するまでに平均約7分かかります、心肺停止患者の場合、この7分間に現場に居合わせた方がAEDを使用した有効な心肺蘇生法を行うことにより、蘇生率が向上します。

### ■ 心肺蘇生法を実施できる市民を増やしたい

この、有効な心肺蘇生法を実施できる、市民を1人でも増やすため、講習会を実施しています。また、より多くの受講者に対応するために「ひらつか応急手当協力会」と協働し事業を推進することにより、平塚市における救命率の向上を目的としています。

### ■ 講習で資格を会得した会員が講習を実施

「ひらつか応急手当協力会」の会員の方は、3日間(24時間)実施される、応急手当普及員講習を受講し、市民に対し心肺蘇生法の講師ができる資格、「応急手当普及員」を会得し、AEDを使用した救命講習会(3時間)と応急手当講習会(1時間30分)の講師をしています。



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

団体への技術指導、講習会開催の連絡・調整

### ■ 団体の主な役割分担

講習会での講師、災害時における救護・救命活動、団体独自で行う応急手当講習会の実施

## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成24年度 事業費 230,600円（うち市の支出額 182,000円）

平成25年度 事業費 335,470円（うち市の支出額 263,470円）

### ■ 主な支出の内容

会員の講習会場までの交通費。ユニホーム代

## 協働による成果

### ■ 受講者が増え年間目標を達成

消防本部では、応急手当講習会の実施回数及び受講者数の年間目標を立て普通救命講習会（年間160回 受講者4300人）応急手当講習会（年間70回 受講者2450人）としています。

協働事業を実施したことにより、24年度は年間目標をほぼ達成しました。また受講者を増員することで、市民による救急現場でのAEDを使用した事例もあります。



## 行政担当課の声

### ■ 講習会の受講者が順調に増加

ひらつか応急手当協力会と協働事業として開始し、25年度が2年目となりました。会員9人から発足し現在では16人となり講師として十分に能力を発揮していただき、講習の受講者が順調に増員しています。

### ■ 講師のスキルアップとレベルの統一、団体独自講習開催を目指す

応急手当の講習は、3年毎の再講習を進めていますので、長期に続く事業です。

今後は、会員の増員と講師としてのスキルアップと、レベルの統一及び、ひらつか応急手当協力会が一団体として独立し講習会を開催することに協力をしていきます。



### パートナーの団体概要

#### ■ 様々な講習会を実施しています

毎月9日に実施している一般公募の講習会。  
消防本部から依頼される事業所等団体が行う講習会。  
消防本部の参加する各種イベント等。  
ひらつか応急手当協力会独自で行う講習会。

#### ■ 現在16人の会員が講師として活躍

現在会員16人にて上記講習会に講師として参加しています。

### パートナーの声

#### ■ 手探りで始めた協働事業

ひらつか応急手当協力会を立ち上げ協働事業に参加し今年度が2年目となります。手探りで始め色々な課題等の解決や勉強会を開催し会員の講師としてのスキルアップ等を図ってきました。

#### ■ 今後は会独自の講習会開催を増やしていきたい

現在では、市民に応急手当を教え平塚市の救命率の向上に協力することや、会員同士の交流等充実した会を運営しています。

今後は、応急手当の必要性を多くの市民に周知し、協力会独自の講習会の開催を増やしていきたいです。



# 協働による地域づくり事業～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携（ひらつか地域づくり市民大学）

- パートナー：NPO法人湘南NPOサポートセンター
- 担当部署：社会教育部中央公民館  
市民部協働推進課
- 提案型：行政提案型協働事業
- 事業年度：平成25年度

## 事業の目的と概要

地域の中の様々な団体・機関をコーディネートし、地域経営の視点を持ちながら、ニーズに基づいた計画的な地域づくりを推進することのできるコーディネーターの養成を目的として「ひらつか地域づくり市民大学」を開講しました。講座ではパートナーであるNPO法人湘南NPOサポートセンターの運営ノウハウを活かして、全5回の講座において普段から実践的な活動をされている講師を招聘することができ、参加者が地域でのコーディネーターとしての役割などを理解できるなど成果が上がりました。

### ■ 無料公開講座と4回の連続講座を開催

「地域づくり市民大学」は、9月1日に第1回講座として無料公開講座「今、地域づくりを考える」をテーマに約70人の参加者のもと開催されました。

その後9月～11月にかけて4回の講義をグループワーク等を取り入れながら開催し、全5回の講座を修了しました。

### ■ 人材バンクの調査・研究

また、公民館のまちづくりセンター化へつなげることを目的に、地域での人材バンク構築に向けての調査・研究を進めました。



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

企画立案・運営支援、施設の提供、情報提供と支援、「公民館だより」や「ちいき情報局」等による広報及び「広報ひらつか」等による講座参加者募集、人材バンク構築に向けた研究・情報提供

### ■ 団体の主な役割分担

企画立案・運営、講座募集チラシ等作成、地域の情報の収集、実施報告書作成、人材バンク構築に向けた研究・提案

## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成25年度 事業費 430,000 円（うち市の支出額 340,000 円）

### ■ 主な支出の内容

企画立案・講座運営費、講師謝礼、広報費、事務費、調査研究費、報告書作成費

## 協働による成果

### ■ 参加者のニーズに合せたプログラム

地域活動の現状等を良く知る団体であったため、参加者のニーズに合わせたプログラムを組むことが出来ました。また、広い人脈を生かした講師の選定を行うことで、参加者の満足度を上げることが出来たと考えています。

### ■ 地域の課題を再認識、今後の活動へのモチベーションに

講座全体を通して、参加者の間でそれぞれの地域や市全体の課題、様々な団体との連携の大切さを再認識することとなり、今後の地域活動へのモチベーションにつながったと考えています。



## 行政担当課の声

### ■ 団体のファシリテート力で議論が深まった

講座の構成として講師等が導入段階で方向性を示しながら説明し、グループワークにつなげるだけでなく、団体の方々にファシリテーターとしてグループに加わってもらったことで、参加者の皆さんもスムーズに課題の洗い出し等ができ、議論を深め合うことで発表へとつながりました。

### ■ 講座修了者のフォローを強化し地域活動をサポート

今後は、所管課による講座修了者へのフォロー（講座の企画や相談体制の充実等）をすることにより、講座修了者が地域活動へと進められるよう、サポートしていきます。

## パートナーの団体概要

### ■ さまざまな団体・組織のつなぎ役とコーディネート

地域課題解決に取り組む市民活動団体や地域活動団体を側面からサポートする活動を行っています。さまざまな組織との協働を進めるためにはコーディネートが重要と考え、そのつなぎ役として市民の皆さんとの交流の場づくりや活動に関する相談を受けています。

### ■ 具体的にはこんなことを行っています。

地域活動団体との連携による事業の運営、会議の進行役、事務局サポート、広報支援の他、団体の連携を推進する事業、企業との連携、情報誌の発行などを行っています。

## パートナーの声

### ■ 受講者の方々の声から

受講された方々から、「他地域での考え方、問題点などがわかり、これから地域活動をする上でも大いに参考になった。」「今回の講座で得た知識を地元に戻り役立てていきたい。」「地域の課題への取り組み方が参考になった。」等の声をいただきました。受講された方の満足度は高く、今後もひらつか地域づくり市民大学を継続する必要性を感じています。

### ■ 行政との打ち合わせが成功の鍵

目的や課題に対する考え方の違いを理解するため、何度も話し合いの場を設けました。事業を進めていくうちにお互いの理解が進み、最終的には同じ目的に向かって事業を行う者同士としての連帯感が生まれました。

団体が地域で事業を行うには、地域の理解が不可欠であるが、行政と協働することで、理解と協力をいただけたことに感謝しています。



# 外国籍市民支援放送事業

- パートナー：多文化共生ひらつか情報局
- 担当部署：市民部文化・交流課
- 提案型：行政提案型協働事業
- 事業年度：平成25年度

## 事業の目的と概要

平塚市では、日本語を母語としない外国籍市民等も暮らしやすい環境を整えるため、外国籍市民等への情報提供の充実を図るとともに、行政、地域住民が相互に連携を持つ必要があると考え、この事業を行っています。

この事業の重要性は東日本大震災によって再確認されたところです。

### ■ FM 湘南ナパサの番組インタナショナル・ナパサ

多言語の情報媒体が少ない中、「FM 湘南ナパサ」を活用した番組「インタナショナル・ナパサ」では、外国籍市民等の母語で情報提供することにより安心、安全な生活環境を構築しています。

また番組では災害等の情報提供だけでなく、生活情報やイベント情報、行政が発信する情報等も伝えます。基本的には毎週火曜日の夜7時から8時で多言語生放送（月に1回又は2回録音放送）しています。

### ■ 信頼性の高い情報を多言語で提供

さらにキャスターの中には各外国籍コミュニティのキーパーソンになるような人もいることから、情報の信頼性を築き、外国籍市民等、行政、地域住民の連携がスムーズにいくように多言語での情報提供を市と協働で実施します。



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

行政が発信する情報の集約と共有化。市民活動団体との連絡調整と助言。緊急時の情報提供や機材の使用許可。

### ■ 団体の主な役割分担

情報を多言語化し、母語で放送。外国籍市民との交流で蓄積したノウハウの提供。臨機応変で積極的な情報発信。

## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成25年度 事業費 439,200円（うち市の支出額 429,200円）

### ■ 主な支出の内容

謝金（有償ボランティア）、消耗品費、団体活動費

## 協働による成果

### ■ 行政との協働で活動の信頼度が上がりました

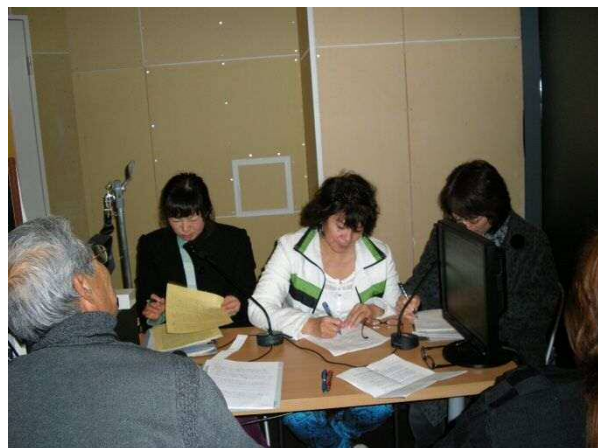
市民活動として長く続けてきた実績のうえに市との協働となり、信頼度が上がったようです。

### ■ 団体と行政の連携が広がり、情報共有が進みました

多文化共生社会という言葉と共に、その意義も広がり、行政や警察などの広報手段の一つとして連携できました。

協働となったことで、情報交換や情報共有、お互いの役割の確認ができ、相互理解が進みました。

またボランティアと顔の見える関係を作れたことで、率直にいろいろ話せるようになりました。



## 行政担当課の声

### ■ 協働により安定した放送体制に

協働することになったことで、コーディネーターやキャスター、翻訳者の組織化が目指され、より安定した放送体制ができつつあることは、外国籍市民等も安心して長く暮らせる環境が整いつつあることではないかと考えます。

### ■ より有益な情報の発信を目指します

行政としても、情報局で発信する情報が今後より有益なものになるように、庁内各課はもちろん関係機関にも情報提供の呼びかけをしていくとともに、各機関や地域と外国籍市民等の交流がより活発になるよう、働きかけをしていきたいと考えています。

### パートナーの団体概要

#### ■ 1995年から始めたFM放送

1995(平成17年)1月コミュニティ放送局 FM 湘南ナパサから多言語で生活情報の放送を始めました。

#### ■ 毎週火曜日夜7時～夜8時に放送中

時間帯、言語数、担当、キャスターなどの変遷を経て、現在は毎週火曜日夜7時から8時までスペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、タガログ語、日本語で外国籍市民に有用な情報を発信しています。『インタナショナル・ナパサ』を番組名とし、『多文化共生ひらつか情報局』はキャスター、HP掲載の翻訳、情報収集、提供ほかのひとたちを含めての団体名です。

### パートナーの声

#### ■ 言語学習にも活用されています

放送では項目ごとに日本語から始まり、次に同じ内容の他の言語が続きます。「毎週言語学習に活用している」というFAXが届いたことがあります。放送を通して外国語に耳慣れ、内容を理解し学ぶこともできることは、外国人、日本人に有用な番組といえます。

#### ■ 番組リスナーを増やしたい

これからは国際フェスティバル、ワールドフェア、商店街や地域のイベントなどに参加し、番組のリスナー、情報局の協力者が増えるように活動しようと考えています。



# 食品の放射性物質簡易検査

- パートナー：NPO法人ひらつかエネルギーカフェ
- 担当部署：市民部市民情報・相談課
- 提案型：行政提案型協働事業
- 事業年度：平成25年度

## 事業の目的と概要

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故により、食の安全・安心やエネルギー問題が全国的な課題となっています。「食品と放射能」の問題については、生産・出荷サイドでの検査が実施されているが、消費者の「食に対する信頼」をさらに回復するためには、

- ①身近な地方自治体である市レベルで、
  - ②市民が消費する食品（お米、野菜等）について、
  - ③市民が安心して依頼できる、
- そのような検査の体制を整える必要があります。

### ■ 平成24年12月から先行実施

早い対応が望まれていたので平成24年12月から先行して検査開始。1日3件検査で週2日実施。検査員として4名登録し、シフトを組んで担当しています。

### ■ 市民が持ち込む自家栽培品や市場流通品の検査

当初は検査員2名でスタートしたが、検査方法を習熟したので平成25年4月からは検査員1名で実施。市民が持ち込む自家栽培や市場に流通している野菜などを検査しています。



## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

検査装置の導入及び定期点検の実施。検査の予約受付。検査結果の公表と必要に応じて精密検査への対応。

### ■ 団体の主な役割分担

検査装置の設置場所提供及び日常管理。検査の当日受付、実施、依頼者への結果通知。放射能・エネルギー問題に関する依頼者への情報提供。



## 事業費とその主な内容

### ■ 事業費と市の支出額

平成 25 年度 事業費 991,520 円（うち市の支出額 906,000 円）

### ■ 主な支出の内容

検査機保守費、検査事務用品等、検査員謝金（有償ボランティア）、検査機設置費、検査用光熱水費、検査員交通費、団体側広報費

## 協働による成果

### ■ 市民目線での検査

行政単独よりも、検査の中立性への信頼を市民から得られ、また市民が検査結果を正しく理解し自立した消費者になる支援についても、より市民目線に立つて行うことができました。

### ■ 協働により団体の専門性、資源を活用

専門知識を持つ中立的団体と協働することにより、検査結果への市民の信頼性を高められ、かつ消費者のリテラシーを高める各種情報の提供ができました。また団体の有する既存の人材・スペース・設備を利用でき、市単独実施に比べて経済的負担が抑えられました。



## 行政担当課の声

### ■ 基準値を超える検査結果から重点的検査を実施し流通品の安全が確保

検査結果が基準値を超えた自家栽培品が 1 件あったが、消費されるのを回避できました。また、同作物の流通品について重点的に県の検査が実施されることになり、流通食品の安全が確保されました。

### ■ 放射性セシウムの半減期は 30 年、今後も検査が必要

放射性セシウムの半減期は 30 年であり、また魚介類等への放射能汚染の顕在化はむしろ今後が心配されています。事故の終息、陸の除染の進行具合、漁の解禁時期など様々な要因が考えられますが、今後も継続して検査を実施することが必要と考えています。

### パートナーの団体概要

#### ■ 環境負荷の少ないまちづくりを目指して

市民と自治体がお互いの特性を活かしながら、持続可能な社会形成にむけて、環境負荷の少ないまちづくりを進め行動するために、2007年からNPO法人「ひらつかエネルギーカフェ」として活動しています。

#### ■ 代官町の拠点「エネルギーカフェみかんや」

具体的には代官町にある「エネルギーカフェみかんや」や各地のイベント会場で、エネルギー関連の講演や相談、福島県飯舘村支援活動（か～ちゃんの力・飯舘応援隊）、さらには平塚市地球温暖化対策実行計画策定協議会とその協働推進プロジェクトに参画するなど、つねに市民目線でエネルギー問題に取り組んでいきます。

### パートナーの声

#### ■ 市民目線に立った信頼性の高い拠点づくり

市民が気軽に食品を持ち込んで、その場で放射能測定に立会い、結果をわかりやすく説明を受けることができる、市民目線に立った信頼性の高い拠点を創ることができました。この拠点を活用して、市民が放射能に関する正しい理解のもとに、安心して食生活が送れるよう行政とともに支援していきます。

#### ■ 近隣自治体との連携、親子で学ぶ教室の開催

さらには近隣自治体とも連携して、測定結果の有効活用や、親子で学ぶ教室などを設けて、自立した消費者意識を醸成していきます。

# 平和意識普及・啓発事業

- パートナー：I LOVE PEACE 事業運営委員会
- 担当部署：総務部行政総務課
- 事業開始：平成元年度

## 事業の概要

平塚市では、市民の皆様には平和の尊さ、大切さについて考え、広く伝え続けていただくことを目的に、年間を通じて様々な平和推進事業を実施しています。そのうち「市民平和の夕べ」、「市民キャンペーン」、「市民広島派遣」の3事業は、本市の平和推進事業に御賛同いただいた市内の市民団体から選出された運営委員により組織した、「I LOVE PEACE 事業運営委員会」との協働で実施しています。

「市民平和の夕べ」では平塚市総合公園の大池周辺を会場に、灯ろう流しやすいとん試食会平和映画の上映などを、「市民キャンペーン」では公民館まつり等多くの市民が集まる場所に出向き、平和クイズを実施しています。「市民広島派遣」では被爆地である広島に小学4年生から中学3年生までの児童・生徒とその保護者等を派遣し、被爆体験者の講演や平和施設の見学、平和記念式典への参加等を行っています。



「I LOVE PEACE 事業運営委員会」には、事業毎の担当委員会議で実施内容の検討を行い、事業当日の運営を行っていただいています。

## 協働に至ったきっかけ・経緯等

平和意識の普及や啓発事業については、行政が一方的に実施をするだけでなく、市民が自ら考え、行動することが必要であるとの観点から、「I LOVE PEACE 事業運営委員会」を組織し、協働しています。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

会場の確保、平和推進事業（市民平和の夕べ、市民キャンペーン、市民広島派遣）の計画、関係機関との調整、資料の作成、広報

### ■ 団体の主な役割分担

担当委員会議の進行、平和推進事業の実施内容の検討、運営

# 湘南ひらつかテクノフェア

- パートナー：湘南ひらつかテクノフェア実行委員会
- 担当部署：産業振興部産業振興課
- 事業開始：平成17年度

## 事業の概要

企業間の連携・取引の促進、大学との技術交流により工業の活性化を図ることを目的に、平成17年度から毎年10月下旬に「湘南ひらつかテクノフェア」を開催しています。

フェアの内容は、企業の製品、技術や大学の研究成果の展示を中心に講演会やセミナーなどビジネスに関する様々なイベントを実施しています。平成17年度の出展者数は30社でしたが、平成25年度には126社と年々規模も大きくなっており、ひらつかサン・ライフアリーナを会場に企業間交流を活発に行っています。

実行委員会は、平塚商工会議所を事務局として平塚市工業会連合会や近隣の大学などにより組織され、行政はフォローする形をとっています。より多くの商取引が活発に行われるように、実行委員会内では話し合いを重ねて事業改善に取り組んでいます。



## 協働に至ったきっかけ・経緯等

市内企業の製品・技術を広く市民や周辺企業に知ってもらうことを目的に始めました。今でもその目的は変わりませんが、よりビジネスマッチング主体のイベントとするため、市内工業会や大学と連携しながら実行委員会形式で事業を進めています。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

イベント事業費の支援、実行委員会への助言、イベント周知、関係機関への連絡・調整

### ■ 団体の主な役割分担

実行委員会の運営、イベントの企画・周知・設営・運営・片づけ、出展者との連絡調整、資料作成など

# 湘南ひらつか七夕まつり

- パートナー：湘南ひらつか七夕まつり実行委員会
- 担当部署：産業振興部商業観光課
- 事業開始：平成23年度

## 事業の概要

「湘南ひらつか七夕まつり」は本市の発展並びに観光客誘致による諸産業の振興及び市民の郷土愛の醸成に資することを目的に開催しています。

まつりの内容は、七夕飾りの掲出、各種イベント、露店商や地元商店によるバラエティに富んだ店めぐりなどです。

また市民飾り・子ども飾りの掲出、七夕おどり千人パレード、市民ステージ出演など、数多くの市民団体がまつりを盛り上げるために集まってきました。

現在の「湘南ひらつか七夕まつり実行委員会」は、平成23年から市民のまつりとして「湘南ひらつか七夕まつり」を開催するために新たに組織されたもので、主催者の立場で各種団体から委員が集まり、検討を行っています。

行政は、事務局（平塚商工会議所、平塚市商店街連合会、平塚市）の一部として、実行委員会をフォローする形となっています。



## 協働に至ったきっかけ・経緯等

当初、商工会議所主催で始まった七夕まつりは、まつりの拡大にともない平塚市主催のまつりとなって長く開催されてきました。

平成23年に、平塚市主催ではなく市民のまつりとして開催したほうがよいとの声を受け、新たに実行委員会を組織して開催するようになりました。

## お互いの特性を活かした役割分担

- 行政の主な役割分担  
会場の準備、資料作成、関係官庁（平塚警察署、保健所）との調整
- 団体の主な役割分担  
実行委員会の運営、まつり当日のスタッフ、資料の作成、関係団体との調整

# あそびの森

- パートナー：平塚市社会福祉協議会 平塚市民生委員児童委員協議会  
平塚市主任児童委員会 神奈川グッド・トイ委員会  
おもちゃの病院ドクターくるりん はちみつ音楽隊  
まざあず モテッリ湘南子どもの家 よんぱくクラブ  
NPO 法人 mama's hug イルカのおやこ
- 担当部署：健康・こども部保育課
- 事業開始：平成21年度

## 事業の概要

「あそびの森」は「福祉まつり」の一環として中央公民館で実施していたイベントを平成22年からは会場をより広い「ひらつかサン・ライフアリーナ」へ移して実施しています。

このイベントは、乳児や幼稚園・保育園へ通っていない未就園児の親子を対象とし、子育て中の悩みや孤立感が解消できるよう、同じ空間で“あそび”を通じて楽しいひとときを過ごすことで仲間づくりや情報交換の場を提供します。

平塚市や平塚市社会福祉協議会、子育て支援に従事している主任児童委員や市民団体が協働で開催しており、参加者相互の交流により地域の子育て支援の輪が更に広がることも期待しています。

また、平成25年度は大人767名、子ども822名、合計1,589名の参加があり、好評をいただいているイベントです。

## 協働に至ったきっかけ・経緯等

当初は、平塚市社会福祉協議会主催で「福祉まつり」として、中央公民館を会場にして主に未就学児のいる親子を対象に『あそびの森』を開催。平成21年度から参加してくれるボランティア団体を募り実行委員会形式を採用し、開催することとなりました。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

会場の確保、実行委員会への助言、資料の作成、関係各課（広報ひらつか等）への依頼、イベント当日の受付等

### ■ 団体の主な役割分担

実行委員会の運営、資料の作成、イベント当日の運営及び会場の準備と片づけ

# 浅間祭

- パートナー：浅間祭実行委員会
- 担当部署：健康・こども部青少年課
- 事業開始：平成7年度

## 事業の概要

浅間祭は、青少年会館の利用者及び市内の青少年を中心に市民との交流を深め、世代間の交流と連携を深めてもらうことにより、社会の一員であるという自覚のもと、地域社会に貢献してもらうことを目的として開催されています。

運営については、浅間祭参加団体が参加費を納入し運営費としており、イベント企画、調整、装飾等の準備を浅間祭実行委員が行っています。

部会は3つあり、屋台やバザーを行う屋外部会、各団体の活動発表等を行う屋内部会、バンド演奏やダンス披露等を行うイベント部会に分かれています。それぞれの部会ごとに、毎年何を行うかを話し合い、出し物等の決定を行っています。

平成25年度の参加団体数は40団体、参加人数約300名となっており、大勢の方々にご参加いただいています。



## 協働に至ったきっかけ・経緯等

国際青年年を期して開催された「青年フェスティバル」と「会館まつり」を平成7年より統合し、会場を青少年会館と文化公園に移し浅間祭がスタートしました。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

必要物品の調達、場所や駐車場等の用意、チラシ・ポスターの印刷と配架、その他事務局としての役割

### ■ 団体の主な役割分担

実行委員会への参加、準備撤収等の手伝い。

# 河川環境整備事業 （馬入水辺の楽校）

- パートナー：馬入水辺の楽校の会
- 担当部署：都市整備部みどり公園・水辺課
- 事業開始：平成13年度

## 事業の概要

違法駐車やごみの不法投棄が多く、人の近づく場所ではなかった相模川河川敷を、市民や子供たちの自然体験の場、遊びの場として活用してもらうことを目的に、河川管理者が整備して平成13年4月に「馬入水辺の楽校」を開校しました。外周を周回する散策路（「浜口哲一自然観察の路」）、トンボ池、カエル池と給水用の風車、生き物観察用の人工の入り江（ワンド）などが整備されています。

この水辺の楽校で活躍する「馬入水辺の楽校の会」は、水辺の楽校プロジェクトの趣旨を尊重していただいている市民のみなさまによって組織されています。会が主催となって自然環境保全を目的としたエコアップ活動や、一般の方を対象としたイベントといった多様な行事を開催しており、水辺環境に親しむ活動が行われています。

## 協働に至ったきっかけ・経緯等

当初からNPO、ボランティア団体等の地域の方々と協力しながら、水辺の自然体験の場、遊びの場として活用されるような地域連帯体制の構築を目指していたことがきっかけです。

## お互いの特性を活かした役割分担

- 行政の主な役割分担  
施設の草刈や修繕等の維持管理、団体イベント等での人員派遣、広報支援
- 団体の主な役割分担  
エコアップ活動、イベント開催等の施設利用運営



# 放課後子ども教室推進事業

- パートナー：やわた子ども村
- 担当部署：社会教育部社会教育課
- 事業開始：平成19年度

## 事業の概要

放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の主体的な参画を得ながら、子どもたちに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などの機会を定期的、継続的に提供するものです。

平塚市では、平成19年度から八幡小学校内に開設された「やわた子ども村」にて取組みを実施しています。

活動内容は、平日の放課後に、やわたルーム（八幡小学校内の余裕教室）や体育館等を利用し、卓球、お花で遊ぼう、絵手紙、バスケットボール、南京玉すだれ、囲碁・将棋などのプログラムを日替わりで実施しています。

長期休みでは、「親子で参加」をキーワードに、夕暮れコンサート、ペットボトルロケットづくりなどの休日プログラムを実施しています。



## 協働に至ったきっかけ・経緯等

八幡小学校の保護者から学童保育や放課後の子どもの居場所づくりを求める声があがり、PTAや地域団体、そして市が協働して、八幡小学校の子どもたちの「居場所づくり」を進める取り組みがスタートしました。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

県への補助金申請事務、委託契約手続き、県主催の研修の情報提供

### ■ 団体の主な役割分担

利用登録の受付、日誌の管理、参加児童保護者との連絡、月間予定表の作成と配付、各プログラムの実施、指導者(安全管理員)の調整、学校及び地域諸団体との調整連絡

# 平塚市市民総合体育大会

- パートナー：平塚市体育振興連絡協議会  
平塚市内各地区体育振興会  
平塚市体育協会
- 担当部署：社会教育部スポーツ課
- 事業開始：昭和27年度

## 事業の概要

市民総合体育大会は、スポーツを愛好する多くの市民にスポーツ活動の機会を提供し、スポーツを通じて健康明朗な心身の育成を図ると共に、地域住民相互の親睦を図り、あわせて市民のスポーツの祭典として開催しています。平成25年度は、正式種目15競技18種目、公開競技6競技が開催され、約3700名の市民が参加しました。

第60回大会よりニュースポーツ大会が市民総合体育大会に組み込まれ、3つのニュースポーツ（パークゴルフ、トリムバレーボール、バウンドテニス）を新たに開催しています。平成25年度には、バウンドテニス12チーム、パークゴルフ120名、トリムバレーボール258人の参加があり、競技性のみを求めるだけでなく、より多くのスポーツを愛好する老若男女の市民が地域及び世代間交流が出来る大会を目指しています。

## 協働に至ったきっかけ・経緯等

昭和27年より、市民のスポーツの祭典として開催され、体育協会を始めとする市内の各種スポーツ団体の協力のもと事業を運営しています。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

大会主催者として、会場の確保、資料の作成、各種調整等を行っています。

### ■ 団体の主な役割分担

平塚市体育振興連絡協議会・・・各地区体育振興会単位で、参加者の募集、調整、派遣等  
平塚市体育協会 等・・・・・・ 各種目の運営等

# 市民病院ボランティア （総合案内補助・車椅子介助等）

- パートナー：ボランティアグループさざ波
- 担当部署：市民病院地域医療・患者支援室
- 事業開始：平成17年度

## 事業の概要

市民病院の外来患者さんは、一日に約 1,000 名を数えます。そのため、外来受付時間である平日の午前 11 時までの時間帯は、看護スタッフによる総合案内、事務スタッフによるよろづ案内が患者さんからの問い合わせに対応しきれないことがあったり、また、外来患者さんの院内の車椅子の移動、入院患者さんの病棟とリハビリセンターの往復、院内散歩の介助等は、専任スタッフだけでは手が足りず、その担い手の不足は慢性的な課題となっていました。

平塚市社会福祉協議会ボランティアセンター登録団体である「さざ波」との協働は、市民病院が団体の活動に実践の場を提供する一方、市民病院もこうした業務の手薄な部分にそのマンパワーをいただき、現在では、市民病院の日常運営には欠かせないものとなっています。

## 協働に至ったきっかけ・経緯等

「さざ波」の団体設立は平成11年。当初は南部福祉会館や栗原ホームのデイサービスのお手伝いをされていました。平成17年から病院側からの要請にもとづき市民病院のボランティアが活動の中心になりました。現在では、平日（月～金）午前中の総合案内補助、水曜日を除く平日午後のリハビリ送迎、水曜日午後の院内散歩の活動に延べ15人が従事されています。

## お互いの特性を活かした役割分担

### ■ 行政の主な役割分担

活動場所の確保（控室を含む）、車椅子やエプロン等の提供・貸与、団体との連絡調整、院内で活動している各種ボランティアと合同で「おつかれさま会」の開催（年1回）等

### ■ 団体の主な役割分担

会員の市民病院ボランティアへの派遣、市民病院の患者サービス、サポートや院内環境への意見提供等

### 3. 提案型協働事業一覧（平成23年度～25年度実施事業）

#### ◆平成23年度実施 提案型協働事業

	事業名	担当部署	パートナー
1 (P1)	小学生向け財政パンフレットの作成	企画部財政課 学校教育部指導室	ひらつか自治体財政研究会
2	地域防災活動者育成研修及び防災ニュースの発行	防災危機管理部 防災危機管理課	ひらつか防災まちづくりの会
3	ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業	経済部農水産課	明日の金田を創る会
4	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」	経済部農水産課	花育ボランティア「花伝道師」
5 (P4)	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化	市民部協働推進課	ひらつか市民活動連絡協議会
6 (P7)	協働事業の情報発信	市民部協働推進課	ひらつか自治体財政研究会
7	心と命のサポート事業「自殺対策啓発事業」	市民部くらし安全課	浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会
8	男女共同参画推進紙芝居実演及び普及啓発事業	市民部人権・男女共同参画課	平塚てづくり紙芝居の会
9 (P10)	「地域猫」への取り組み	環境部環境政策課	平塚のら猫を減らす会
10 (P13)	里地里山保全活動による地域環境再生と共生社会の確立(ランドワークの推進)	環境部環境政策課	土屋里地里山再生グループ
11 (P16)	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	環境部資源循環課	ごみを活かす会

#### ◆平成24年度実施 提案型協働事業

	事業名	担当部署	パートナー
1 (P1)	小学生向け財政パンフレットの作成	企画部財政課 学校教育部指導室	ひらつか自治体財政研究会
2	地域防災活動者育成研修、防災懇談会及び防災ニュース発行	防災危機管理部 防災危機管理課	ひらつか防災まちづくりの会
3)	みんなでつくる花いっぱい街づくり事業	経済部農水産課	明日の金田を創る会
4 (P4)	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化	市民部協働推進課	ひらつか市民活動連絡協議会
5 (P10)	「地域猫」への取り組み	環境部環境政策課	平塚のら猫を減らす会
6 (P13)	里地里山保全活動による地域環境再生と共生社会の確立(ランドワークの推進)	環境部環境政策課	土屋里地里山再生グループ
7 (P16)	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	環境部資源循環課	ごみを活かす会

※カッコ内は事例の紹介ページです。

### 3. 提案型協働事業一覧（平成23年度～25年度実施事業）

#### ◆平成24年度実施 提案型協働事業

	事業名	担当部署	パートナー
8 (P19)	高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課	湘南の森
9 (P22)	朗読による平和推進事業	学校教育部指導室	朗読「糸の会」
10 (P25)	「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座	社会教育部 中央公民館	NPO法人ひらつかITサポート
11 (P28)	応急手当の普及・啓発事業 (応急手当講習会等の実施)	消防本部 消防救急課	ひらつか応急手当協力会

#### ◆平成25年度実施 提案型協働事業

	事業名	担当部署	パートナー
1 (P31)	協働による地域づくり事業～地域の課題解決に向けた市民活動団体との連携～（ひらつか地域づくり市民大学）	市民部協働推進課 社会教育部中央公民館	NPO法人湘南NPOサポートセンター
2 (P34)	外国籍市民支援放送事業	市民部文化・交流課	多文化共生ひらつか情報局
3 (P37)	食品の放射性物質簡易検査	市民部 市民情報・相談課	NPO法人ひらつかエネルギーカフェ
4 (P10)	「地域猫」への取り組み	環境部環境政策課	平塚のら猫を減らす会
5 (P13)	里地里山保全活動による地域環境再生と共生社会の確立（グラウンドワークの推進）	環境部環境政策課	土屋里地里山再生グループ
6 (P16)	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	環境部 循環型社会推進課	ごみを活かす会
7 (P28)	応急手当の普及・啓発事業 (応急手当講習会等の実施)	消防本部 消防救急課	ひらつか応急手当協力会

※カッコ内は事例の紹介ページです。

#### 4. その他の協働事業一覧（平成25年度実施事業）

##### ◆平成25年度実施事業

	事業名	担当部署	パートナー
1	平塚市民・大学交流委員会事業	企画部企画政策課	平塚市民・大学交流委員会
2	平塚市地域安全運動推進大会	防災危機管理部 危機管理課	平塚市防犯協会
3 (P40)	平和意識普及・啓発事業	総務部行政総務課	I LOVE PEACE 事業運営委員会
4 (P41)	湘南ひらつかテクノフェア	産業振興部 産業振興課	湘南ひらつかテクノフェア実行委員会
5	湘南ヤーコン応援団	産業振興部 産業振興課	湘南ヤーコン応援団
6	湘南ひらつかふれあいマーケット	産業振興部 産業振興課	湘南ひらつかふれあいマーケット 出店者会
7	平塚市中小企業経営支援事業	産業振興部 産業振興課	湘南経営支援パートナーズ
8	商業まつり	産業振興部 商業観光課	商業まつり実行委員会
9 (P42)	湘南ひらつか七夕まつり	産業振興部 商業観光課	湘南ひらつか七夕まつり実行委員会
10	商店街にぎわい創出事業	産業振興部 商業観光課	平塚市中心街イベント実行委員会
11	花火大会開催事業	産業振興部 商業観光課	湘南ひらつか花火大会実行委員会
12	市民向け講座等共催事業	市民部協働推進課	市民活動団体
13	ひらつか市民活動センターまつり	市民部協働推進課	ひらつか市民活動センターまつり 実行委員会
14	公益信託ひらつか市民活動ファンド 助成事業	市民部協働推進課	市民活動団体 公益信託ひらつか市民活動ファンド 運営委員会
15	ボランティア&市民活動見本市	市民部協働推進課	市民活動団体
16	ユースボランティア	市民部協働推進課	市民活動団体 平塚市社会福祉協議会
17	市民活動団体向け ソーシャルメディア講座	市民部協働推進課	ひらつか市民活動連絡協議会・情報 部会
18	ワードでチラシ作成講座	市民部協働推進課	ひらつか市民活動連絡協議会・情報 部会
19	無料パソコン相談会	市民部協働推進課	NPO法人ひらつかITサポート 湘南県西SOHOネット

※カッコ内は事例の紹介ページです。

4. その他の協働事業一覧（平成25年度実施事業）

	事業名	担当部署	パートナー
20	市民窓口ギャラリー	市民部市民課	湘南市民美術会
21	みんなの消費生活展	市民部 市民情報・相談課	平塚市食生活改善推進団体 平塚友の会、あおいほし せっけんビレッジ ユーコープ平塚市エリア会 湘南生活クラブ生協 commons 平塚 平塚市地域婦人団体連絡会
22	国際交流関係事業	市民部文化・交流課	平塚市国際交流協会
23	国内都市交流事業	市民部文化・交流課	平塚市都市提携委員会
24	国連思想普及事業	市民部文化・交流課	国連協会平塚支部
25	平塚市男女共同参画社会に向けた情報誌編集委員会	市民部 人権・男女共同参画課	平塚市男女共同参画社会に向けた情報誌編集委員会
26	平塚市男女共同参画推進登録団体との事業共催	市民部 人権・男女共同参画課	平塚市男女共同参画推進登録団体
27	地域支援事業	福祉部高齢福祉課	河内健康体操 宮松町健康体操 みんなのサロン みずほ会・笑話会・すいすい会 平塚市障害者福祉協会
28	ふれあいミニ運動会	福祉部障がい福祉課	東海大学ボランティアサークル
29	ふれあいキャンプ	福祉部障がい福祉課	平塚市社会福祉協議会（ボランティアセンター） 指定相談支援事業所
30	子育て支援事業への保育士派遣	健康・こども部 保育課	地域の子育て支援グループ
31 (P43)	あそびの森	健康・こども部 保育課	平塚市社会福祉協議会 平塚市民生委員児童委員協議会 平塚市主任児童委員会 神奈川グッド・Toy委員会 おもちゃの病院ドクターくるりん はちみつ音楽隊 まざあず モッテリ-リ湘南子どもの家 よんぱくクラブ NPO法人 mama' s hug イルカのおやこ
32	感覚統合療法普及事業	健康こども部 こども家庭課	ひろげよう子育て支援の会
33	健康づくり支援事業	健康・こども部 健康課	平塚市健康推進委員連絡協議会

※カッコ内は事例の紹介ページです。

4. その他の協働事業一覧（平成25年度実施事業）

	事業名	担当部署	パートナー
34	地域健康づくり活動推進事業	健康・こども部 健康課	健康クラブ・旭いきいきクラブ はつらつフレンド 地域ふれあいの会 いきいきサークル ベルウォーキング 港なぎさウォーキング いこいの里 でこぼこ 松が丘地区生き生きとした地域を考 える集い
35	献血推進事業	健康・こども部 健康課	市内ライオンズクラブ 日本赤十字社神奈川県赤十字血液セ ンター
36	平塚市成人式	健康・こども部 青少年課	平塚市成人式
37	平塚市青少年交流体験事業	健康・こども部 青少年課	平塚市青少年交流体験事業実行委員会 平塚市海洋少年隊 平塚市ジュニア・リーダーズクラブ
38	平塚市青少年健全育成のつどい	健康・こども部 青少年課	平塚市青少年健全育成のつどい実行 委員会
39	平塚市青少年国際交流事業	健康・こども部 青少年課	平塚市青少年国際交流事業実行委員会 ヒコーキ雲の会 平塚市国際交流協会
40 (P44)	浅間祭	健康・こども部 青少年課	浅間祭実行委員会
41	平塚市子ども大会	健康・こども部 青少年課	平塚市子ども大会実行委員会
42	資源ごみ回収に係る交付金	環境部環境施設課	平塚市資源回収協同組合
43	資源ごみ買上金	環境部環境施設課	市内全自治会
44	まちづくり支援事業	まちづくり政策部 まちづくり政策課	袖ヶ浜地区まちづくり協議会 袖ヶ浜の環境を守るまちづくり協議会
45	西部丘陵地域資源活用検討事業	まちづくり政策部 まちづくり政策課	湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に 向けた協議会 東京農業大学総合研究所研究会地域 再生研究会
46	平塚市違反屋外広告物除却事業	まちづくり政策部 まちづくり政策課	平塚市違反屋外広告物除却協力員 (愛称M・K・O)
47	景観重点区域「都市のシンボル軸」 の取組み	まちづくり政策部 まちづくり政策課	大門会
48	景観重点区域「歴史軸」の取組み	まちづくり政策部 まちづくり政策課	平塚宿まちなみ景観協議会
49	建築耐震なんでも相談会	まちづくり政策部 建築指導課	一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 平塚支部
50	花とみどりのモデル地区・商店会	都市整備部 みどり公園・水辺課	八重咲町自治会 代官町商店会（みゆき会）

※カッコ内は事例の紹介ページです。



#### 4. その他の協働事業一覧（平成25年度実施事業）

	事業名	担当部署	パートナー
51	平塚市緑化まつり	都市整備部 みどり公園・水辺課	平塚市緑化まつり実行委員会
52	馬入花畑整備事業	都市整備部 みどり公園・水辺課	馬入花畑の会
53 (P45)	河川環境整備事業（馬入水辺の楽校）	都市整備部 みどり公園・水辺課	馬入水辺の楽校の会
54	渋田川桜まつり	都市整備部 みどり公園・水辺課	渋田川桜まつり実行委員会
55	河内川あじさいまつり	都市整備部 みどり公園・水辺課	河内川あじさいまつり実行委員会
56	花とみどりの推進団体育成事業	都市整備部 みどり公園・水辺課	平塚市緑化モデル団体連絡協議会
57	なでしこ公園ふれあい花壇	都市整備部 みどり公園・水辺課	なでしこフラワーボランティア
58	花とみどりの推進団体育成事業 （公園愛護会連絡協議会）	都市整備部 みどり公園・水辺課	平塚市公園愛護会連絡協議会 平塚市内各公園愛護会（154団体）
59	鈴川鯉のぼり祭り	土木部土木総務課	大畑自治会
60	選挙啓発事業	選挙管理委員会 事務局	平塚市明るい選挙推進協議会
61	地域教育力ネットワーク推進事業	社会教育部 社会教育課	平塚市地域教育力ネットワーク 協議会
62 (P46)	放課後子ども教室推進事業	社会教育部 社会教育課	やわた子ども村
63	平塚市展	社会教育部 社会教育課	平塚市展委員会
64	村井弦斎まつり	社会教育部 社会教育課	村井弦斎まつり実行委員会
65	エコ・ミュージアム金目まるごと 博物館推進事業	社会教育部 社会教育課	エコ・ミュージアム金目まるごと 博物館推進委員会
66	平塚市市内駅伝競走大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市市内駅伝大会実行委員会 平塚市陸上競技会 平塚市スポーツ推進委員協議会
67	女性バレーボール大会	社会教育部 スポーツ課	平塚ママさんバレーボール協会
68	少年少女マラソン大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市陸上競技協会 平塚ロータリークラブ
69 (P47)	平塚市市民総合体育大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市体育振興連絡協議会 平塚市内各地区体育振興会 平塚市体育協会
70	平塚市スポーツ推進委員協議会	社会教育部 スポーツ課	平塚市スポーツ推進委員協議会
71	平塚市体育指導委員連絡協議会	社会教育部 スポーツ課	平塚市体育指導委員連絡協議会

※カッコ内は事例の紹介ページです。

#### 4. 提案型以外の協働事業一覧（平成25年度実施事業）

	事業名	担当部署	パートナー
72	市民総合体育大会ニュースポーツ大会パークゴルフ競技	社会教育部 スポーツ課	NPO法人湘南平塚パークゴルフ協会
73	市民総合体育大会ニュースポーツ大会バウンドテニス競技	社会教育部 スポーツ課	平塚市バウンドテニス協会
74	市民総合体育大会ニュースポーツ大会ひらつかトリムバレーボール大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市スポーツ推進委員協議会
75	平塚市少年少女剣道大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市剣道連盟 平塚なでしこライオンズクラブ
76	平塚市少年少女水泳大会	社会教育部 スポーツ課	平塚水泳協会 平塚ライオンズクラブ
77	平塚市少年野球大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市少年野球連盟 平塚市中学軟式野球連盟
78	青少年スポーツ交流大会事業	社会教育部 スポーツ課	スポーツクラブ連合
79	平塚レクリエーション連盟	社会教育部 スポーツ課	平塚レクリエーション連盟
80	女性テニス大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市テニス協会
81	女性卓球大会	社会教育部 スポーツ課	平塚卓球協会
82	女性バドミントン大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市バドミントン協会
83	平塚市体育協会	社会教育部 スポーツ課	平塚市体育協会
84	ナイターソフトボール大会	社会教育部 スポーツ課	平塚市ソフトボール協会
85	学校体育施設開放事業	社会教育部 スポーツ課	各小中学校開放運営委員会
86	中央図書館映画会	社会教育部 中央図書館	映画会ボランティア
87	ブックスタート	社会教育部 中央図書館	ブックスタートボランティア
88	平塚市子ども読書活動推進フォーラム	社会教育部 中央図書館	各中学校区子ども読書活動推進協議会
89	おはなし会（中央図書館）	社会教育部 中央図書館	中央図書館おはなし会ボランティア
90	乳幼児向けおはなし会(赤ちゃんおはなし会)（中央図書館）	社会教委部 中央図書館	中央図書館乳幼児向けおはなし会ボランティア
91	おはなし会（西図書館）	社会教育部 中央図書館（西図書館）	地域ボランティアかぼちゃの馬車
92	乳幼児向けおはなし会(赤ちゃんおはなし会)（西図書館）	社会教育部 中央図書館（西図書館）	乳幼児向けおはなし会ボランティア

※カッコ内は事例の紹介ページです。

#### 4. 提案型以外の協働事業一覧（平成25年度実施事業）

	事業名	担当部署	パートナー
93	おはなし会（南図書館）	社会教育部 中央図書館(南図書館)	南図書館お話し会ボランティア
94	乳幼児向けおはなし会(赤ちゃんおはなし会)（南図書館）	社会教育部 中央図書館(南図書館)	南図書館赤ちゃんおはなし会ボランティア
95	おはなし会（北図書館）	社会教育部 中央図書館（北図書館）	おはなし会ボランティア
96	乳幼児向けおはなし会(赤ちゃんおはなし会)（北図書館）	社会教育部 中央図書館（北図書館）	乳幼児向けおはなし会ボランティア
97	春期特別展「水と生きる里 - 金目の風土とその魅力-」	社会教育部 博物館	エコミュージアム金目まるごと博物館
98	防火防災講演会	消防本部予防課	平塚市危険物安全協会
99 (P48)	市民病院ボランティア (総合案内補助・車椅子介助等)	市民病院 地域医療・患者支援室	ボランティアグループさざ波

※カッコ内は事例の紹介ページです。

## お問合せ・連絡先

協働事業は、行政と一緒にを行う事業です。  
企画の段階から一緒に考えていきましょう。  
よい提案がありましたら、まずは協働推進課へご相談ください。

### 平塚市市民部 協働推進課 市民協働担当

〒254-0811

平塚市八重咲町3-3 JAビルかながわ2階

電話 21-7534 FAX 22-3037

E-mail : [kyodo@city.hiratsuka.kanagawa.jp](mailto:kyodo@city.hiratsuka.kanagawa.jp)